

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

第1回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会が、6月22日(木)に北巨摩合同庁舎で開催されました。100名近くの方が集まり、協議会、研修会(講演会)、地区全体会及び情報交換会が行われました。協議会において決定した各地区の本年度役員は、次のとおりです。

峡中地区

会長 西山 豊 氏 (甲斐市教育委員会教育長)
副会長 牛奥 久代 氏 (甲府市女性団体連絡協議会会長)
" 佐野 誠 氏 (甲府市小中学校PTA連合会会長)

峡北地区

会長 堀内 正基 氏 (北杜市教育委員会教育長)
副会長 矢巻 令一 氏 (韮崎市教育委員会教育長)
" 佐々木 君子 氏 (北杜市保育協議会会長)



研修会:本県における特別支援教育の現状と課題

一特別支援学校で取り組む「合理的配慮」の実際一

山梨県立かえで支援学校 校長 元木 哲哉 氏 同校教諭 武井 恒 氏

1 特別支援教育とは

・障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する視点に立ち、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導支援を行うもの。また、知的な遅れのない発達障害も含め、特別な支援を必要とする子どもが在籍する全ての学校で実施されるもの。そして、共生社会の基礎となるもの。

2 特別支援教育の対象

・15人に1人が発達の障害の可能性があるとされている。文科省調査の中でも6.3~6.5%という数字が出ている。一方、平成27年度のデータでは、特別支援学校、小中学校の特別支援学級、通級指導教室の子どもたちを全部合わせても、義務教育段階の全児童生徒数の3.58%(約36万2千人)にしかない。6.5%という数値。特別な支援を必要とする子どもたちが、通常学級の中にかかなり潜在化している可能性が高い。

3 県内の特別支援教育の状況

・特別支援学校在籍者は、H8年に569人だったのが年々増加し、H28年には1051人。増加の中心になっているのは知的障害で、感覚障害(視覚・聴覚)は約30人くらいで横ばいか減少の傾向にある。肢体不自由は80人前後で横ばい。本校もH13の開校時と比較すると約2.5倍に増加している。そのため校舎の増築も行った。
・特別支援学級在籍者は、今まで知的障害が多かった。現在は自閉症・情緒障害が激増している(今年度は前年比13学級増)。本県だけでなく全国的傾向である。本県の場合、公立の小中学校の9割に特別支援学級が設置されている。



・通級指導教室には、①通常学級に在籍し、自校の通級教室に通う。②他校の通級指導教室に通う。③通級指導教室の先生が訪問するという3つのパターンがある。言語障害と発達・情緒の組み合わせで構成されているところが多いのが本県の特徴。最近まで本県では、中学校に通級指導教室がなかったが、H27年度に玉穂中、今年度から塩山中、竜王中の2校に設置された。次年度から高校でも制度的には実施できるようになる。

4 情報提供（検索すれば無料で様々な情報が入手できるため、是非、活用してほしい）

- ・国立特別支援教育総合研究所（NISE）の活用をしてほしい。インクルDB、実践事例、法令・用語解説、教材、各種講義の無料配信、免許法認定講習等があり、非常に有用なサイト。「NISE」で検索を。
- ・「教育支援資料」…（文科省H25.10）就学手続きだけでなく全ての障害種についての説明も加えている。
- ・「教育支援体制ガイドライン」…（文科省H29.3）H16のガイドラインの改訂版。保護者用の項目もある。
- ・「各都道府県教委発行の資料集」…本県では、H29.3に発行された「通級による指導ガイドブック」が最新
- ・「新学習指導要領」関連…4/28に告示が公示され、文科省のHPには本文をはじめ改訂の要点等が掲載済。

5 まとめにかえて（日常的指導におけるPDCAサイクルの重要性）

・どのような障害であっても、その特性を知るために、心理や病理、発達等の基礎・基本を学ぶことはとても重要。しかし、臨床場面では、子どもとの関係性（ラポール）を十分に作ることで、そしてしっかりとアセスメントすることが最も重要。例えば、あの子は「発達障害だから」とレッテルを貼っただけでは何の意味もない。「発達障害のA君だから」「A君だからどうしなければならないのか」とその指導方策を見だし、「個別の指導計画」を立て試行錯誤を繰り返す。そこから配慮すべき最も重要な糸口が見えてくるのではないかな？

6 合理的配慮の実際（ここから、武井先生の説明）

〇かえで支援学校の「合理的配慮分析シート」

（A：背景・原因、B：行動・課題、C：配慮・結果 という3つの部分から成る）

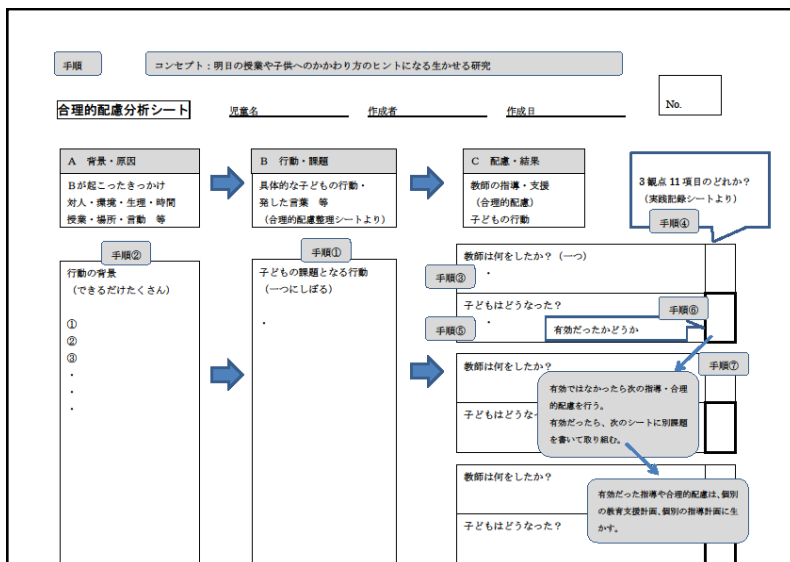
<使い方の手順>

- ① Bを記入（例：字が読めない）。一つに絞る。
- ② Aを記入（例：漢字がわからない、視力が悪い等）。できるだけたくさん挙げる。
- ③ C「教師は何をしたか？」を記入。（一つ）
- ④ 「合理的配慮の3観点11項目」（中教審初等中等教育分科会報告）の該当項目の確認。
- ⑤ C「子どもはどうなった？」を記入し、有効だったかどうかを検証する。
- ⑥ 有効でなかったら別の指導・合理的配慮を行う。有効だったら新しいシートに別の課題を書いて取り組む。また、有効だった指導・合理的配慮は、個別の指導計画に生かす。



本校では、このシートを使って子どものアセスメントをする中で課題を把握している。そして、それについての背景・原因を考え、どのような指導支援を行ったら良いのかを教師みんなで考えて、指導支援を行っている。最終的には共通項をまとめ、カテゴリーに分け、事例集「かえでサポートブック」としてまとめる。このサポートブックによって、本校の取り組みを他校でも利用してもらうことをめざしている。

講演の感想の一部です



- ・特別支援学校の現場を知り、驚くことばかりでした。支援を得て学校で過ごしている子どもたちの様子。もっともっとたくさんの保護者にも知っていただいて、「何かできること」をやらなければいけないとも思いました。先生方の子どもに対する想いがわかり、かえで支援学校の子どもたちは幸せだなと思えました。武井先生の教材づくりも、子どもを想う気持ちも加わって素晴らしい教材ですね。支援学校も課題はたくさんあると思いますが、子どもたちのためにこれからもよろしくお願いします。（PTA役員）
- ・保育所は5歳児30名に1名の保育士。どのように合理的配慮をしていけばよいか、どの程度取り入れていけばよいか…大きな課題だと感じた。子どもともに常に生活しているので、配慮しきれない場合もある。（幼稚園保育園関係者）
- ・元木校長先生の熱意溢れる説明と、武井先生のすぐにも使える合理的配慮の数々。本日は、本校の特別支援学級担当が別の研修のため出席できませんでしたが、ぜひ聞かせたい内容でした。学校に戻り、職員に還流したいと思います。ありがとうございました。（中学校 教頭）

「子育て支援リーダー実力アップ講座」始まる

6月2日（金）「子育て支援リーダー実力アップ講座」の第1回が山梨県立大学で36名の参加者を集めて開催されました。子どもや家庭をとりまく環境が大きく変化し、子育てに関する意識も変わってきています。核家族化や共働き世帯の増加による子育てへの不安感・負担感の増加を解消し、地域で子育てや家庭教育の支援活動を積極的に推進できる人材を確保するための講座です。

県立大学の高野牧子教授による本講座のオリエンテーションの後、県立大学福祉・教育実践センター顧問の池田政子先生の講座が開かれました。池田先生から



子育て支援の歩み(背景)や子育て支援の目的をわかりやすくお話していただきました。その後、グループに分かれ、自信の子育てのふり返りや最近の保護者の姿についての感想や意見を共有する中で、これからのグループ研究のテーマについて話し合いました。

講座は全部で10回が予定されており、10月のグループ自主研究発表会まで、講義と研究を進めていきます。

「やまなし少年海洋道中」参加者抽選会

「やまなし少年海洋道中」は、心豊かでたくましい青少年の育成をめざし、洋上生活体験や八丈島における自然体験活動を通して、友情・連帯・責任・奉仕の精神を涵養するとともに、地域リーダーとしての資質向上を図ることを目的としています。今年度のテーマは「八丈島・でっかい体験2017」で、山梨県内中学生50名(男女各25名)を募集します。例



年、大勢の応募があり、今年度も応募者多数のため、6月4日（日）に甲府市東光

寺の山梨ことぶき勸学院で抽選会を実施しました。保護者が見守る中、緊張の抽選が行われ、会場は喜びと落胆が入り交じりました。

今後、1泊2日の事前研修会を実施し、8月1日から8泊9日の八丈島の研修に臨みます。生徒は貴重な体験の中、一回りも二回りも大きく成長して、戻ってくることでしょう。

不登校、引きこもり、発達障害の子どもへの理解

6月3日（土）山梨メンタルフレンド研究会主催「不登校や引きこもりや発達障害の子どもへの理解」講演会が甲府医療秘書学院で開催されました。講師は、登校拒否文化医学研究所・大須成学園園長であり、臨床心理士の高橋良臣先生です。

2012年の文科省の調査では、通常学級の中で6.5%の児童生徒が発達障害の可能性があるとされています。1クラスの中に発達障害の可能性である児童生徒が2人在籍している割合になります。また、最近の社会問題の1つである「引きこもる大人達」の4人に1人以上が、発達障害の可能性がそう



です。高橋先生には、発達障害の子どもたちの理解や支援について、自身の実践例をもとに具体的に話していただきました。次回の講演会は、10月14日(土)に予定されています。

「ほめ言葉のシャワー」

菊池省三氏が中巨摩春季教育研究会で講演

5月10日（水）「中巨摩春季教育研究会」が橿形総合体育館で開かれ、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」でも取り上げられたり「世界一受けたい授業」にも登場した教育研究実践家の菊池省三先生の講演がありました。

菊池先生は、様々な荒れた学級を立て直してきた実践に裏付けられた教育法を、実際の映像を使って紹介してくれました。「子どもは、自信がないから友だちをいじめたり、教師に反抗的になる。『自信』を持たせることこそが、学級崩壊やいじめをなくすこと」と話されました。そのため、先生は子どもを褒めることにこだわり、何気ない仕草やちょっとした表情など、ささいな事までも、きちんと褒めるそうです。また、教師が褒めるだけではなく、子ども同士でも褒め合う機会を毎日設け、自分の良さや友だちの良さに気づかせる工夫を重ねています。「ほめ言葉のシャワー」で子どもたちが「自分らしさ」を取り戻すための実践です。子どもたちは日替わりで当番となり、当番はクラスメイト全員からその日に見つけた良いところを発表してもらい、というものでした。これにより、子どもは自主性が芽生え、積極的な子どもに変わるという教育方法です。そして、「ありがとう」に溢れ、自信と安心がつけられる学級になるそうです。

ワークショップを加えながらの講演は、参加の先生たちも積極的にになり、菊池先生の実践に共感しながら聴いていました。今後の教育活動に取り入れられることを期待したいと思います。



社会教育関係団体の総会、行われる

表彰者は中北地区管内が過半数

県は、県内17の社会教育団体で構成される「山梨県社会教育振興会」の事業に補助を行い、活動を支援しています。ここでは6月に総会を行った団体のうち、2つについて紹介します。

山梨県社会教育委員連絡協議会通常総会が6月8日（木）、敷島総合文化会館で行われました。昨年度の事業報告・会計報告、今年度の事業計画・予算案の審議が行われた後、社会教育の振興に貢献された方11名の表彰がありました。中北地区管内から甲府市の奥山幾代子様、南アルプス市の佐野一彦様、甲斐市の小林啓子様、韮崎市の清水こずゑ様、平賀光様の5名が表彰を受けました。7年間または9年間にわたり、社会教育委員をお務めいただきました。

また、山梨県公民館連絡協議会定期総会が6月14日（水）、山梨市民会館で行われました。議事に先立ち、公民館職員として5年以上勤務された方々10名の表彰がありました。中北管内では小林能行様（韮崎市中央公民館館長）深澤俊夫様（韮崎市藤井公民館館長）青木洋子様（韮崎市中央公民館主事）深澤賢治様（韮崎市大草公民館主事）浅川節子様（韮崎市中央公民館運営審議委員）の5名です。議事の中では役員の変更が協議され、平成22年度から7年間会長を務められた堀内邦満様から窪田包久様への交替が承認されたほか、昨年度の事業報告・会計報告今年度の事業計画・予算案の審議が行われました。



平成29年度 『中北.com』 No.2

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援担当

柴 茂生 矢崎 克洋

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/>